

## Spinoza

思い出せなかった  
自分にひそひそと言った  
君に気付いて欲しかった  
君はそんな関係ないって

思い出せなかった  
ハンマーで自分をやっつけようとした  
壁に呪いをかけた  
君はそんな関係ないって

Big Tomとギター  
混み合ったバーたちを覚えてるかい  
雪山でのドライブ  
スケボーしてたのかな それとも止まってたのかな

時間が経つにつれ 君は振り返るかもしれない  
自分が言ってしまったこと  
時間が経つにつれ、君は振り返るかもしれない  
自分が言ってしまったこと

昔の自分にしがみついている  
君は自分の名を持っている 君は自分の名を持っている  
君をショッキングウィンドー越しに見かけたんだ  
君の世界が溶けた雪の中でくずれていくのが見えないのかい

誰にもすがりついてない  
何にもすがりついてない  
あったことを否定しないで  
私を否定しないで しらないで

## Extra Free Year

もう戻れないんだね  
君が鏡に話してるのが聞こえる  
だけどきっと僕にはもう話さないだろう  
僕も疲れた  
教えて これ以上よくはならないの  
じゃあもう、..

だから お願い お願い お願い もう一度だけ

だから今度鏡に話す時は  
君はそんな早く認めたりしなかったよね  
君が知ってる張子の虎たち  
楽しかった思い出はもうずっと前のものばかり  
だから お願い お願い お願い ー もう一度だけ  
いつだか 教えて

## Say When

聞いた話ではもう僕じゃ物足りないみたいだね  
友達は何を疑わない  
でも僕はまだ信じるには早いと  
でもどうだろう

もう僕たちは会話を交わさない  
戻ること触れない  
最悪何が起るんだ  
ちょうどいい量がもらえるのなら  
いつだか 教えて

忘れないで 君は  
指輪をキスしなくてもいいんだ 誰も君にそれはさせない  
だからって君のことを嫌いなわけじゃない  
君が嫌いだからって

もう僕たちは会話を交わさない  
戻ること触れない  
最悪何が起るんだ  
ちょうどいい量がもらえるのなら  
いつだか 教えて

## You Got Me

伝えるのに 何ヶ月も待った  
なんて時間の無駄なんだ  
巻き戻す 戻ってこさせる  
君を僕のものにす

毎晩  
いつも君は僕をうずかせる

## Put a Light On

危ない道だ 大丈夫だろう  
行き方を見つけた その道を行くんだろ  
道のりは長すぎる 星がまぶしすぎる  
待つには長すぎるよ 今夜ここから抜け出すには

君がどこかで聞いたことだったのか 君が口にすることなのか  
僕は言葉を探そうとする  
君が僕から離れていった言葉を  
道のりは長すぎる  
星がまぶしすぎる  
星がまぶしすぎるよ  
待つには長すぎるよ  
今夜ここから抜け出すには

彼らが戦うように 戦う必要はない  
今日は帰っただろ。灯りをつける。  
僕と僕の青い空は真っ暗  
僕と僕の青い空は真っ暗

太陽がきつと乾かしてくれる

危ない道だ  
大丈夫だろう  
行き方を見つけた  
その道を行くんだろ  
道のりは長すぎる  
星がまぶしすぎる  
星がまぶしすぎるよ  
待つには長すぎるよ  
今夜ここから抜け出すには

## I Never Know

きつと僕が苦労してても 君は気を悪くしないだろう  
だけど僕は信用してきた人たちの話を聞いてきた  
そして答えは見つからない  
君を信じるにも 君を置いてくにも 答えが見つからない

君以前の話なんてどうでもいいんだ  
君はそれにとらわれている 僕はそれを無視する  
答えが見つからない  
僕は誰を信じれば 何がわかったのだろう 答えが見つからない

誰もきつと抱きしめられない 今夜君と帰れないなら  
そしたら他の人が君をどう思ってるか わかるだろう  
答えが見つからない  
でも君に答えを求めるのを忘れた 答えが見つからない

## Awake

君の友達に僕にこう言った  
君が寝ている間にしゃべっていた  
秘密をしゃべっていた

君が最初の何年かで遠くへ行っちゃったのはわかってた  
暇つぶしに君は喧嘩した  
でもそれが終わったら 君はなんとかやってた

どうなるかをいうのは難しい  
頑張ってたものに  
君はすがりついている  
全部素直におだてられている 君がみんなにやらせてる  
君がやること、全て  
海岸の波はどうなってるの  
僕なら知ってるはず、と君は言う  
何か隠し事があるんだ、と僕は思う

いつも通りに何かをやり終える  
そうしてみんなに知られることに誇りを持つ  
そして彼らが君の名前を呼ぶことに満足している

どうなるかをいうのは難しい  
頑張ってたものに  
君はすがりついている  
全部素直におだてられている 君がみんなにやらせてる  
君がやること、全て

君がすっかり目を覚ます頃には  
もう彼らはいない  
君の話し声が聞こえたんだ

波が見えるの  
彼らは君のずうずうしさに気付いた  
そして君が認めるのを待ってるんだ

## Kemal

君には僕が見えない でもみんなに見て欲しいと  
立ち止まらないで 今までのことを全部悪くとらえないで  
彼らは殆ど全てを見た なんの為に君をとったんだ  
彼らは欲しくなかった 彼らは君が欲しいんだ

いつもそう  
頭にたたきこもうとする  
全部順番にね Oh  
もうおしまいだ

彼らは聞く耳を持たない 君は戻ってるくるとい  
彼らはどうとう爆発した そんなことは考えたこともない  
君は殆ど全てを見た なんの為に君をとったんだ  
彼らはそれを不思議と思わなかった

いつもそう  
頭に叩き込もうとする  
全部順番にね Oh  
もうおしまいだ

沈んでく石のよう  
待つ必要はない  
自分ひとりだと思ってるだろう  
僕の反応を待つな

君はそれを取り戻すんだ  
君から欲しがってるのはそれだけなんだ  
君はそれを取り戻すんだ  
なんとしてでも

## I Used to Let You Get to Me

君に夢中だった  
4thとChestnutの角までよく歩いた  
壊れたドアベルを鳴らした  
そして座って 君を待った  
君の家  
そしてボストンなまりが上手だった  
そして僕は君に言う、Babyここにいる  
もうちょっと話をしようよ

僕になんて言って欲しいか言ってくれ  
なにもないなら もう僕の帰る時間だって言ってくれ  
全能が君にそれを吹き込んでるの？  
君が歩幅を遅くしようとするのは

僕は証明できる もし誰かが 君に  
君に夢中だった  
知らなかったかい

君を泣かせて悪い  
まだ若かったのか  
君に夢中だった  
でも今は違う  
本当に本当に知りたいんだ  
全能が君にそれを吹き込んでるの？  
君が歩幅を遅くしようとするのは

ちょっとやりすぎてしまった  
触れるのには まだ近すぎるんだ  
君に夢中だった  
でも今は違う

本当に本当に知りたいんだ  
全能が君にそれを吹き込んでるの？  
君が歩幅を遅くしようとするのは

## Durga II

もし僕が何かを隠してるのなら  
時間をくれ そしたら言える  
一分以上はいらない  
たまには僕を助けに来てくれ  
電話をしたがるのは目に見えてる  
けどもうちょっと支えが欲しいんだ  
きつと長く続く  
やりたくないなら やらなくていい  
誰だって通る道さ  
悪夢と化して 冷や汗で目を覚ませばいい  
自分のやり方があるのはわかってる  
いつかやるのならば  
まだ決心がつかないの？

そして言うまでに 時間をあげたら  
その時に僕はまだいるだろうか？  
方法なんて教えられない 準備しておきやなきやね  
その時までに  
僕がいなくても

だからもし僕が何かを隠してるのなら  
時間をくれ そしたら言える 一分以上はいらない  
たまには僕を助けに来てくれ  
電話をしたがるのは目に見えてる  
けどもうちょっと支えが欲しいんだ  
きつと長く続く